

真木野の子安講掛軸の女神様

-子安鬼子母神像と手見奈靈神像の由来をさぐる-

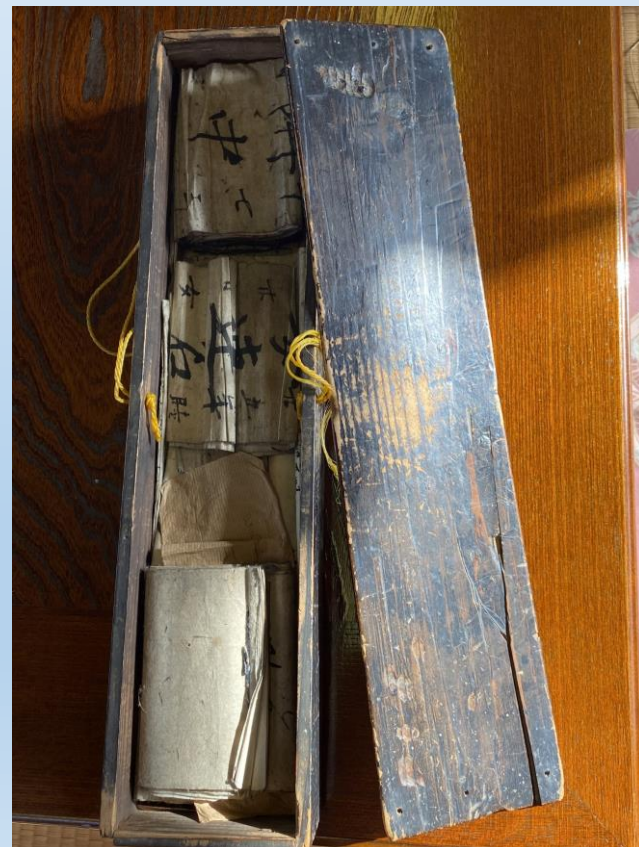
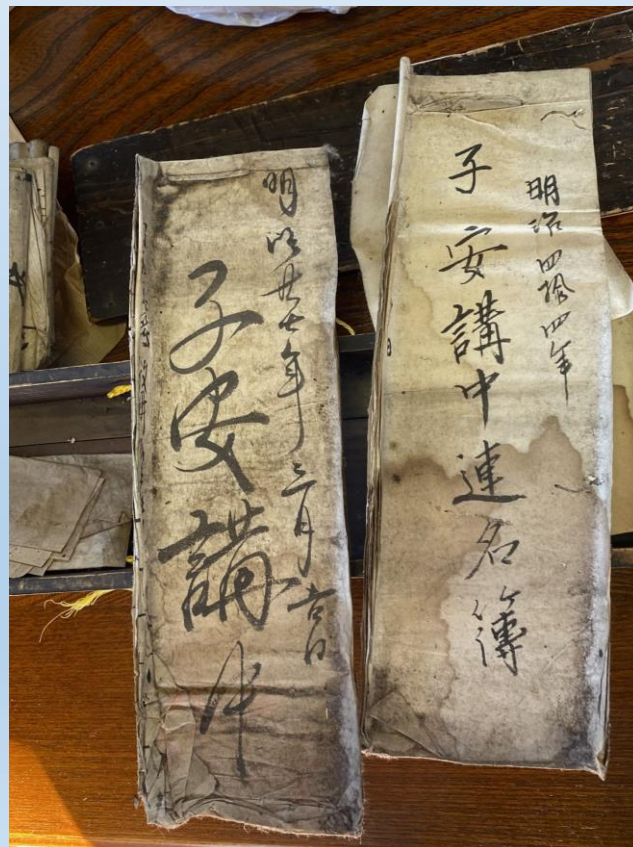


2023年4月22日、真木野集会所で真木野に住む方々との情報交換会が開かれ、ムラに伝わる子安講や庚申講についてのお話をお聴きする機会がありました。

特に子安講については、講の本尊である子安鬼子母神像と手児奈靈神像の2幅の掛軸を拝見させていただきました。



またこの掛軸が入っていた箱には、明治期の子安講の連名簿などの史料が7冊入っていました。





真木野の子安講では、文化10年（1827）銘の「子安鬼子母神」像と、明治44年（1911）銘の「手児奈靈神」像の掛軸を、講の本尊として伝えてきました。

この二つの掛軸の女神像の美しいお姿を紹介し、さらに「鬼子母神」・「真間の手児奈」とはなにか、その由来と民間信仰を探ります。

1.子安鬼子母神掛軸



文政10年(1827)金居作の子安鬼子母神掛軸。

「高誉山日俊」は、妙徳寺23世住職。

「若悩乱者」「頭破七分」は、妙楽大師の『法華文句記』に説かれた文で「法華經の行者を悩乱する者の頭を鬼子母神・十羅刹女が阿梨樹の枝のように破る」との意味。



若悩乱者
子安鬼子母神
頭破七分

若悩乱者
子安鬼子母神
頭破七分

(子安鬼子母神像)

文政十丁寅曆正月十八日吉辰

高誉山

日俊(花押)

金居
印

裏面

改装

昭和三十六年八月吉日

子安講中

文政十丁寅曆正月十八日吉辰

金居
印

鬼子母神信仰とは

他人の子供を奪って食べてしまう鬼神だった訶梨帝母（ハーリテイ）に対し、釈迦が彼女の末子を隠して、子を失う母の悲しみを悟らせたことから、彼女は仏教に帰依して、子供の守り神となったという鬼子母神説話（「雑宝蔵経」）に由来します。

この説話は密教とともに日本に伝えられ、平安後期には、安産祈願の修法が貴族の間で盛んに行われましたが、貴族の没落とともに、民衆に浸透することはなく、訶梨帝母信仰は忘れられていきました。

訶梨帝母座像

鎌倉時代の滋賀県園城寺蔵の
重要文化財彫刻



曼荼羅に加えられた十羅刹女と鬼子母神-1

鎌倉時代、日蓮聖人は「十羅刹女と申すは10人の大鬼神女、四天下の一切の鬼神の母なり。また十羅刹女の母なり、鬼子母神これなり」と、鬼子母神を重視しました。

「日蓮真筆」と伝えられる「お曼荼羅」には、十羅刹女と鬼子母神が加えられ、日蓮宗信者にとっては、鬼子母神は子供を守る神であるばかりでなく、信者・宗徒の外護神として崇められました。

鬼子母神・十羅刹女画像

長谷川等伯筆
室町時代 永禄7年（1564）

海秀山 高岡大法寺（日蓮宗） 蔵



曼荼羅に加えられた 十羅刹女と鬼子母神-2

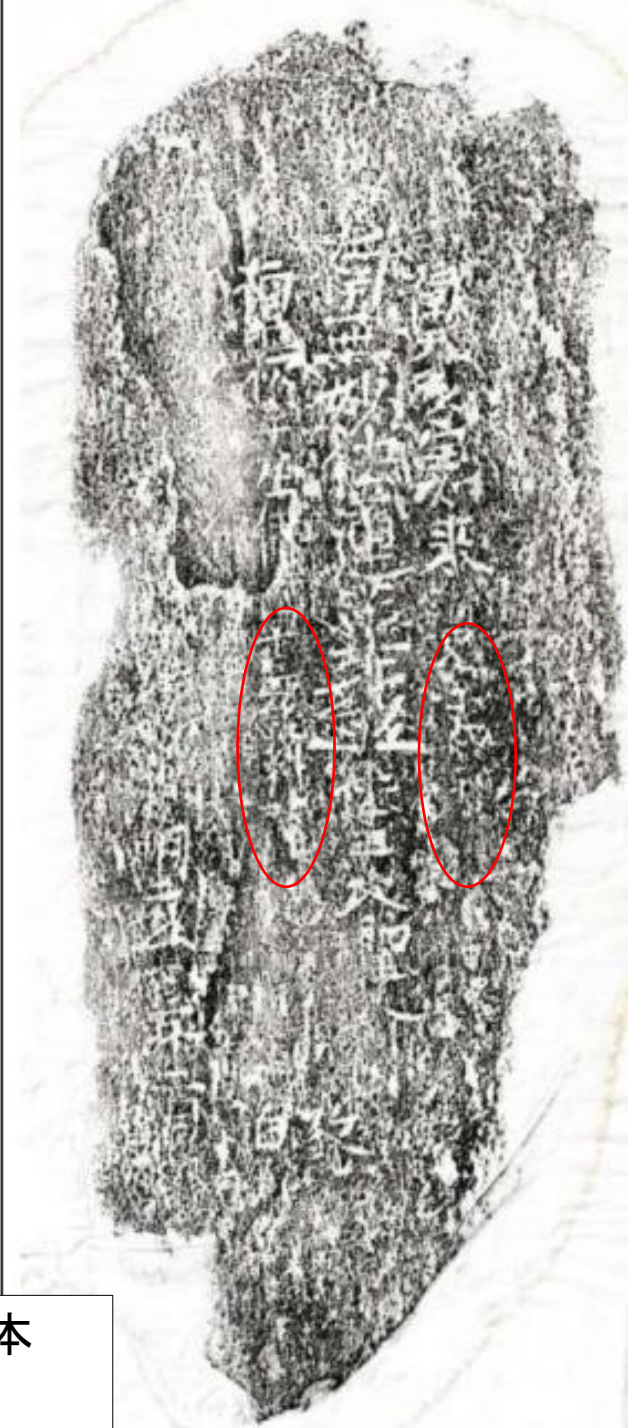
板碑に見る鬼子母神

八千代市の題目板碑で、
十羅刹女と鬼子母神が記さ
れているのは、8基あります。

初出は応永10年（1403）
銘の小池の板碑からです。

このころから中山法華経
寺領のムラの民衆に鬼子母
神信仰が浸透していったと
考えられます。

右図は、鬼子母神と十羅
刹女の銘のある佐山の板碑
です。



南无多宝如来

鬼子母神

南无妙法蓮華經 法主大聖人

南无釈迦牟尼佛

十羅刹女

敬

白

十日

明應七年二月

佐山妙福寺の板碑拓本
明德7年(1498) 銘

鬼子母神と子安鬼子母神

☆子安鬼子母神

優しいお顔で子供を抱く天女型の「子安鬼子母神」像は、日蓮宗系のムラの子安講の本尊とされます。

北総のムラの女人講は、江戸時代に如意輪観音像を本尊とした十九夜講から、子を抱く「子安観音」や「子安大明神」像を本尊とし、安産子育を祈願する子安講へと変わり、特に近代にとっても盛んになりました。

日蓮宗系のムラでも、「子安観音」「子安大明神」像に類似した慈母型の「子安鬼子母神」像を本尊としましたが、その像は子安観音の持つ未敷蓮華（蓮の花のつぼみ）の代わりに、吉祥果の柘榴（ざくろ）の枝を持つことが特徴です。

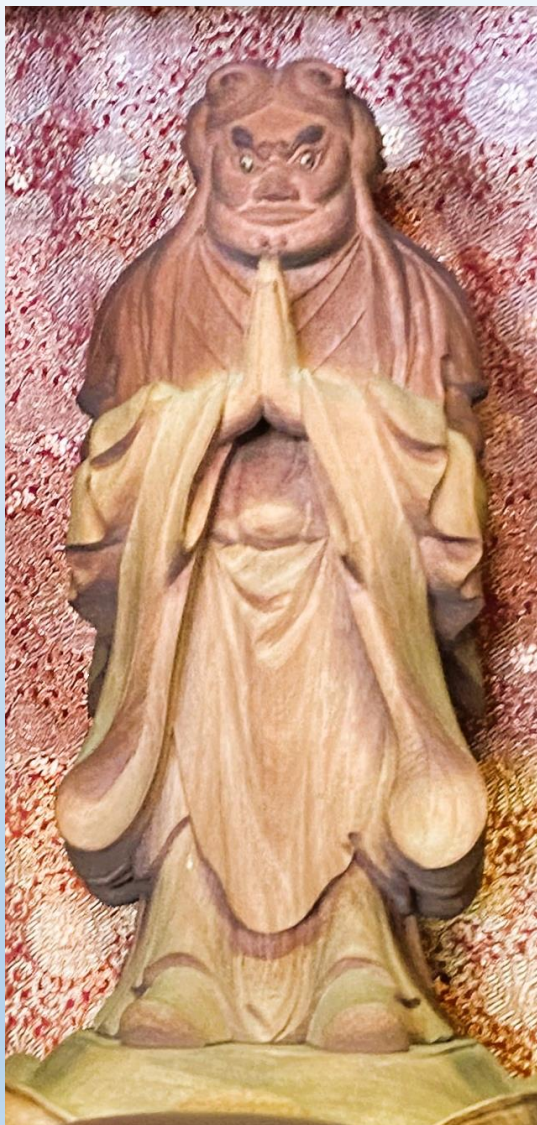


佐山妙福寺の子安鬼子母神像



麦丸の小安講掛軸「子安大明神」像

☆鬼形鬼子母神



↑佐山妙福寺の鬼子母神像

怒りの表情で邪悪なものを打ち砕く「鬼形鬼子母神」像は、中山法華経寺とその祈祷の秘法を伝える遠壽院を中心に、病氣回復、怨魔退散、子育ての祈祷本尊として崇められてきました。

文永元年（1264）の房州の法難の危急の時、日蓮聖人に鬼子母神が現れ一命を救ったといわれ、その靈験を深く感じ、尊像を親刻されたといわれます。

中山法華経寺での鬼子母神祈祷は、日蓮親刻の鬼子母神像の前で木剣加持祈祷して、祈祷札を授与してくれるというもの。この祈祷は、荒行修行を終えた祈祷僧によってのみ行われます。

真木野の山崎家蔵の鬼子母神像掛軸→



鬼子母神像の子安塔-天女形



船橋市前貝塚町行伝寺
文久2年（1862）

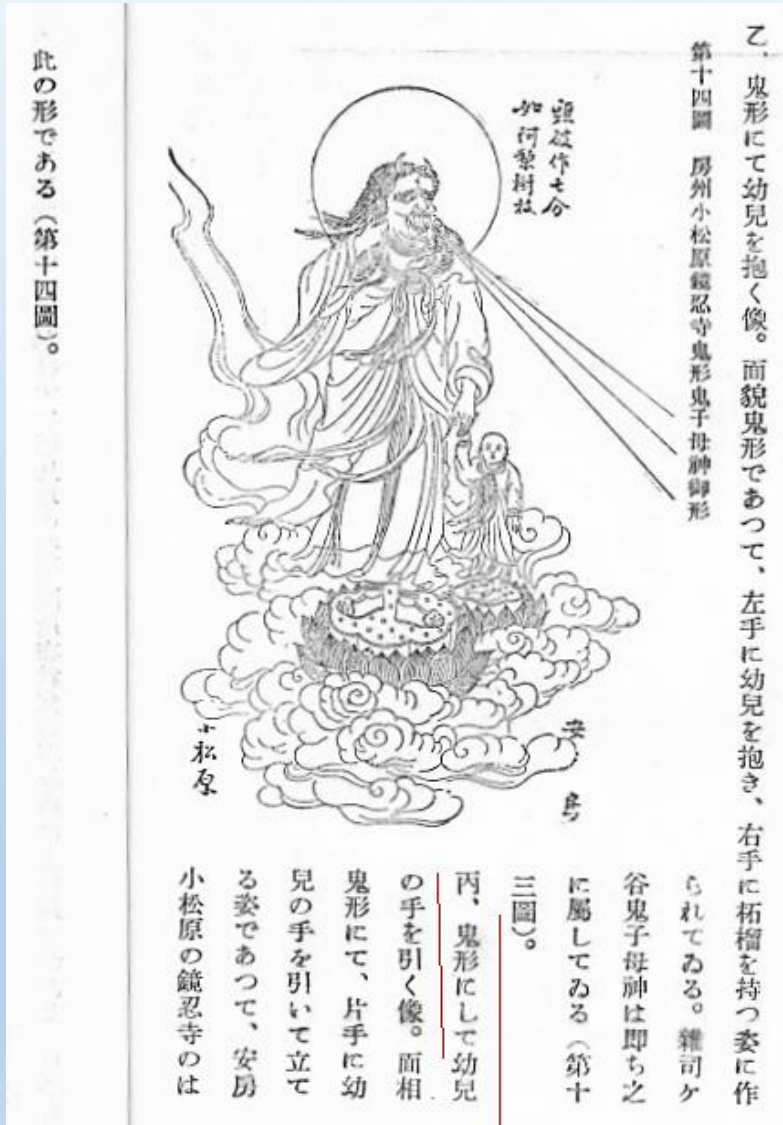


八千代市萱田町 長妙寺
嘉永2年（1849）



萱田町 長妙寺
昭和39年（1964）

鬼子母神像の子安塔-2 鬼形にして幼児の手を引く像



三輪善之助著(昭和十年)
『子安観音と鬼子母神』



千葉市長作町長胤寺
明治28年 (1888)

2.手児奈靈神掛軸



明治44年（1911）に、市川の真間山弘法寺より、真木野の安産講に授けられた掛軸



裏面

昭和二十二年一月吉日改装

真木野区子安講一同

山崎ふさ 山崎さき 山崎葉子
 山崎隆 花澤はな子 戸田乙伊
 山崎とよ 山崎恵子
 戸田ふじ 山崎はつ

昭和二十三年一月吉日改装

真木野区子安講一同

山崎ふさ 山崎松木 山崎葉子
 山崎隆 花澤はな子 戸田乙伊
 山崎とよ 山崎恵子
 戸田ふじ 山崎はつ

明治四十四年九月良辰洗手焚香謹図之

安産守護手児奈靈神

南無妙法蓮華經

(手児奈靈神像)

若有懷妊者安楽産福子

真間山

日慎(花押)

七十世

授よし 真木野安産講社中家門繁栄子孫長久者也

・唐様の衣装をまとい右手に柘榴の枝を左手に宝珠を持つ靈神像の上に、髯題目、像の下に「真間山弘法寺 七十世（謙光院）日慎」の署名と花押がある。

・「若有懷妊者安楽産福子」は、「妙法蓮華經法師功德品 第十九」により、「法華經を受持信行する者の安産は間違いない」との意味。

真間の手児奈霊神堂探訪 2023.10.12撮影



10月12日、真木野の子安講の明治44年銘の手児奈霊神像の掛軸について、詳しく調べるため真間山弘法寺の手児奈霊神堂を訪ねました。

手児奈は多くの男性に慕われつつも誰に寄り添うこともなく、真間の入り江に身を投げたと伝えられる伝説の美女です。

人々に慕われた手児奈は万葉集に詠まれています。

我も見つ人にも告げむ勝鹿の真間の手児名が奥津城ところ(432)

勝鹿の真間の入江に打ち靡く玉藻苺りけむ手児名し思ほゆ(433)

真間の手児奈靈神堂探訪-2

真間の手児奈は、市川の弘法寺で供養されてきましたが、文亀元年（1501）弘法寺7世日与上人の靈夢に手児奈が現れて「永年の供養のお礼として、今後は子授け・安産・子育ての守護靈神となる」と告げられ、手児奈靈神堂を創建、以来多くの女性たちに信仰されています。



大正9年銘の「安産講記念碑」



真木野の子安講掛軸に署名と花押がある「真間山七十世日慎」（謙光院日慎上人）は、明治38年から昭和19年まで弘法寺の貫主（住職）を勤められ、境外の浮嶋弁財天尊像を開眼されました。

手見奈霊神堂周辺はかつて入江が深く入っていた水辺で、浮嶋弁財天を勧請したところ、洪水の被害を免れたご利益があったそうです。



水辺に立つ手見奈霊神堂を俯瞰した浮世絵



弘法寺70世日慎が勧請した 浮嶋弁財天堂

手児奈靈神像の御姿について

現在、手児奈靈神堂で靈神像の御姿入りのお札が配布されていますが、明治期の真木野の掛軸の像容と同じ御姿です。

この御姿はどのように成立したのでしょうか。



真木野の子安講掛軸



く 所願具足心大歡喜
奉 祭祀手児奈靈神守護
大威神力多所饒益

真間山弘法寺
手児奈靈神堂



手児奈靈神堂のお札

☆七面天女(七面大明神)像

七面天女は日蓮宗系において法華経を守護するとされる女神。

「本地は弁才天功德天女、鬼子母天の御子なり。右には施無畏の鍵を持ち、左に如意珠の玉を持つ。北方畏沙門天王の城「吉祥園」にいますゆえ吉祥天女とも申したてまつる。」(「身延鏡」伝承)

右手に施無畏の鍵、左手に如意珠の玉を持つ。

唐様の装束で岩座(影嚮石)に座る姿。輪光に3つの宝珠。

吉祥天・弁財天と同一とされる。

日蓮の母が病気になられたとき、弟子の日朗が身延山の鬼門方向の七面山にお詣りし、この七面山に祀られている七面大明神が吉祥天であったといわれて、日蓮宗の多くのお寺では、この像をお祀りしています



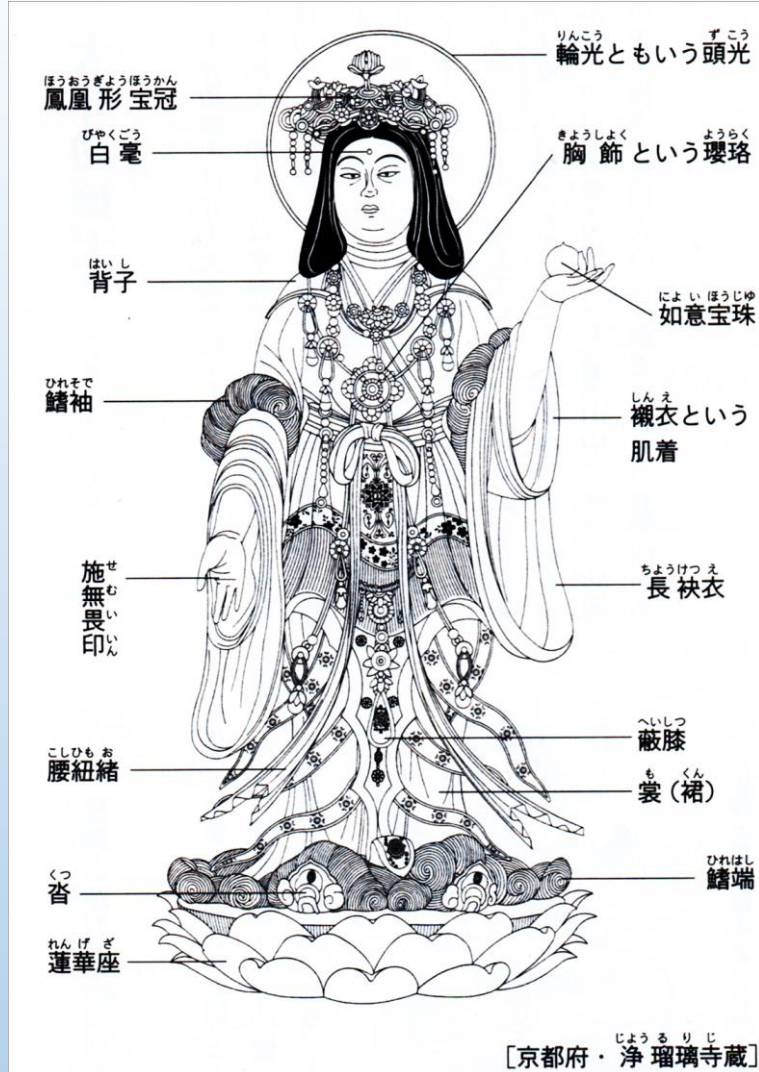
☆吉祥天像

仏教の守護神である天部の美・幸福・富を授ける女神。

母は鬼子母神、夫を毘沙門天とする。

右手は如意宝珠を持ち、左手は願いをかなえる与願印の印相。

唐様の装束で蓮華座に立つ姿。



[京都府・浄瑠璃寺蔵]

八千代八福神のうち吉祥天は、小池の妙光寺の七面天女像を吉祥天としています。

八福神巡りの御朱印の像は、一般的な吉祥天の像です。

吉祥天

日蓮宗 常寶山妙光寺(小池)
「本尊 釈迦牟尼仏」

きつしょうてん



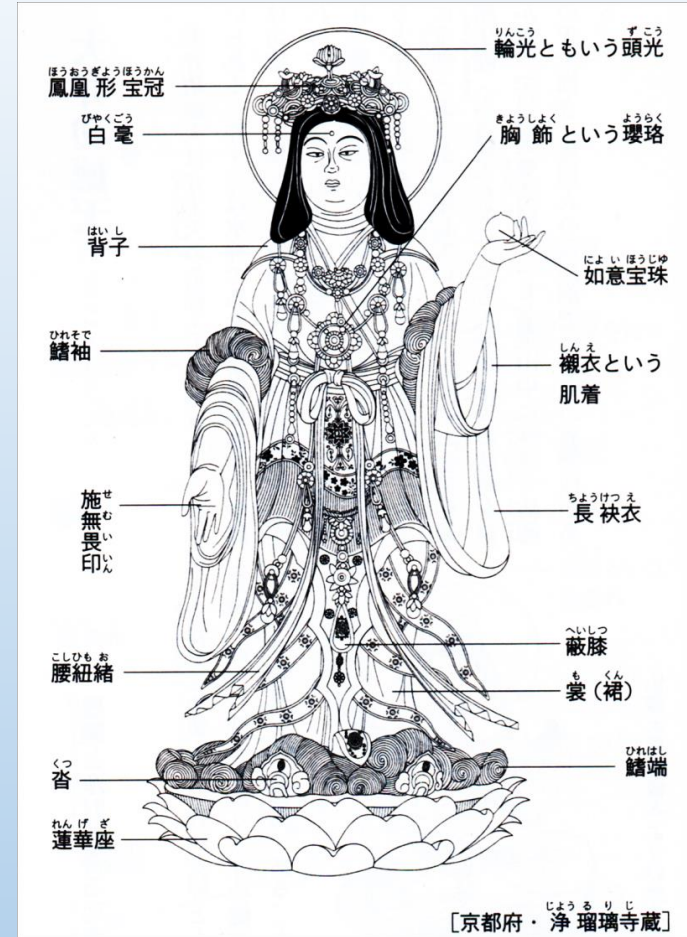
手児奈靈神像



七面天女像



吉祥天像



日蓮宗の守護女神の七面天女像と、七面天女と同じとされている吉祥天の一般的な像容を合わせて、手児奈靈神堂の本尊が創られ、その版摺りの御姿が近代にいたるまで広く流布されたのではないのでしょうか。

おわりに

真木野の子安鬼子母神像と真間の手児奈霊神像の掛軸との出会いは、今現在行われている子安講の本尊として、貴重な出会いでした。

各地域の子安講・庚申講・富士講などの講の本尊の掛軸は、石造物と違って、使い込まれて交替し、現存するものはきわめてまれです。

今回の調査では、日蓮宗地域のムラの子安講の本尊の掛軸が、江戸時代後期と明治期の種類が異なる2幅あり、どちらも日蓮宗独特の2柱の女神像で、民俗史料として貴重な発見でした。

この貴重な出会いをさせてくださった真木野の区長様、子安講皆様に厚く御礼申し上げます。

この2幅の掛軸と、山崎家の鬼子母神像掛軸は、特別展示「真木野の祈りの掛軸－旧家とムラの講に伝わる信仰資料」で公開していますので、展示会場でご覧いただければ幸いです。

ご清聴 ありがとうございます。

By. 蕨 由美